



1月16日(木) 「友～旅立ちの時～」 -学級や学校の一員としての自覚を深める-
ゆずの「友～旅立ちの時～」の歌詞から、学級や学校の一員としての自覚を深め、仲間とよき思い出ができるように生活するためには、どうしたらよいかを話し合いました。

みんなの感想

1年生

- 卒業する時に後悔がないように、部活や勉強をがんばって、たくさん思い出をつくりたいです。もう少しで3年生が卒業してしまうのはさみしいけど、今までの感謝をしっかり伝えて最高の卒業式にしたいです。
- 卒業式は後悔がないようにしたいです。2年後だけど、「もっと勉強をがんばったら良かった」「もっと部活をがんばったら良かった」など後悔したくないので、毎日一生懸命がんばって、卒業の時、後悔なく笑顔で卒業したいです。「友～旅立ちの時～」を聞いて、今年の先輩の卒業式では感謝の気持ちを込めて大きな拍手で送りたいです。
- 中学校の卒業式には、いい思い出を思い出しながら卒業したいです。そのために、楽しむときは楽しんで、やるときはちゃんとして、メリハリをつけたいです。そうしたら、いろんなことに役立つと思うし、いい思い出がたくさんできると思うので、頑張りたいです。
- 私は友達との時間を大切にしたいなと思います。自分が3年生になって卒業するときには、受験のことで不安な気持ち、幼稚園の時から一緒だった同級生と別れてしまう寂しい気持ち、高校に入学するのが楽しみな気持ちなどたくさんの気持ちを抱えていると思います。そんな時に友達に支えられたり、支えたりして中学校で過ごした時間がとても良い時間だったと思えるようにしたいです。

2年生

- 私は歌詞の中に「確かな答えなんて何一つない旅さ 支えてくれる声が 気づけばいつもそばに」という部分が心にひびきました。自分がした選択に不安になることもあるかもしれないけれど、1人じゃないと勇気づけてくれました。これから卒業までの1年、友達や周りの人をより大切に色々な思い出をつくらせていきたいと思いました。
- 合唱コンクールでの動画を見て、みんなが1つの曲に思いをのせて歌う姿に感動しました。卒業式の思い出は、大人になっても色あせない素敵な思い出ばかりだったので、私も中学校を卒業するときに忘れられない思い出を1つは作ってみたいと感じました。やり残したことがないように1日1日を楽しく過ごしていきたいと思いました。
- 小学校の卒業式ではあまり感じなかった友達との別れが自分の中では不安です。それに合わせて新しい環境にもなり、不安で心がいっぱいになることが多いと感じました。でもそういう不安などを共有、共感してもらうには友達が必要だなと思いました。
- 私は卒業式の時、友達との思い出と別れを考えると泣いてしまうと思います。この曲の「同じ空の下 どこかで僕たちは いつも繋がっている」というのが、卒業しても一緒だよという感じがしていいなと思いました。私も全力で歌い、最後にふさわしい卒業式にしたいです。

3年生

- あと少しだけしか時間は残っていないんだと気づいた。友達との関係で後悔が絶対に残らないようにしたい。同じ教室で毎日授業を受けている普通だったことが貴重な時間になると分かった。あと少ししかない普通の生活を大切にしようと思った。
- 小学校からずっと思い出をつくらせてきた友達に感謝し、みんなで頑張って乗り越えたことを忘れず、卒業式を迎えたいと思いました。今までの自分たちらしく、互いを励まし合いながら、最高の卒業式にしたいです。そのためには、今からでも毎日を大切にたくさん思い出をつくらせていきたいです。
- 卒業式は別れの場ではなく、それぞれが自分のために決断して選んでいく道のスタートなんだと思った。だから卒業式では笑顔でいたいと思った。中学校では別れても、またつながることもあると思うのですべての人との縁を大切にしていきたいと思う。思い出に残る卒業式にできたらいいと思った。
- みんなで気持ちよく卒業できるようにしたいです。全員が受験に合格して行きたい高校へ行けるように、今は勉強を頑張りたいです。そしてみんなで中学校での思い出を話したり、これからのことについて話せたりできるような卒業式にしたいです。
- 自分や友達の中で、忘れられない貴重な卒業式にしたいと思いました。そのために、今身近にいる同級生を大切に、卒業式までの日も大事にしていったらいいと思いました。

※前回の心もれ美を見て保護者の方からご感想をいただきましたので、紹介させていただきます。

- 避難所において、被災者がストレス無く、人間らしい生活や自分らしい生活を送ることが必要だと思いました。そのためには、避難所での起床の時間や食事時間などの生活習慣や配慮が必要な人の部屋を、最適な場所へ配置したりするなどして、快適に避難生活ができるようなルール作りが必要であると思いました。また、十分な食品や必要な衛生用品などを全員に配布したりするなど生活の質を向上させ、避難所における良好な生活環境を作ることも大事だと思いました。
- いつ起こるかかわからない災害に対して、実際に起こった時には、どのようにすれば良いか、各々が考える時間を持ち、どうすれば避難所で生活できるか考えた結果を見ることができて良かったです。しかし、「核家族が増えた今、小さい子供や他の人との交流が実際にはできるのか?」「コロナ禍もあり、他者との触れ合いが減ったにもかかわらず、普段接したことのない障がい者に接することができるのか?」とも感じました。障がいがある方は身体だけでなく、知的・精神とあります。少しの変化で大きなパニックを起こすことも考えられるので、そのことも含めて、話の中に少しでも入っていれば、もっとたくさんの意見が聞こえてくるのではないのでしょうか。

きりとり

この通信をご覧になったの感想などをお書き下さい。返信欄は切り取ってお子様を通じて担任まで提出して下さい。ご協力よろしくお願いいたします。